

令和8年2月9日

横手市議会議長 菅原 正志 様

出席議員代表

広報広聴委員長 井上 忠征

『市民と議会の懇談会』 報告書

「市民と議会の懇談会」の実施状況を下記のとおり報告いたします。

1. 開催日時	令和8年1月20日（火）18時30分～20時10分
2. 開催場所	里見地区交流センター
3. 出席議員	土田百合子、井上 忠征、立身万千子、石岡恵美子、江上 善一 土谷 久男、高橋 聖悟、築山 智、加藤 勝義、宮川 拓也 菅原 正志、大日向香輝、小野 正伸、柴田 忍、石川 拓也
4. 申請団体	里見地区交流センター運営協議会
5. 参加人数	32人（議員15人、申請団体18人）
6. テーマ	人口減少対策について
7. 懇談会の内容	司会：井上忠征 広報広聴委員長 ① 開会 ② 里見地区交流センター運営協議会からテーマの説明 ③ グループごとの意見交換 ④ 各グループで出された意見の報告 ⑤ 閉会

8. 意見交換の主な内容

①Aグループ（小野正伸、井上忠征、石岡恵美子、大日向香輝）

- ・子どもがいないのが人口減少の最大の原因だろう。なぜ子どもがいないかという育てていけないから。農業経営では生計が立てられない、雪国で快適に暮らすことができない。
- ・生活にもっと便利な市にならなくてはならないのではないかな。
- ・Uターンする人に対して、子育て支援がもっと必要ではないかな。
- ・空き家バンクの情報が見えにくい。
- ・これらの課題から解決策を考えると、自分たちがもっと幸せに、楽しく、面白く暮らすことが重要なのではないかな。
- ・市の名所をもっとアピールする、田舎ということ前面に押し出したPRをしていく必要がある。
- ・この地は素晴らしいところだと子どもに魅力を伝える教育の機会があればよい。
- ・現行の市SNS運用はぬるいんじゃないかな。
- ・外から人を呼び込む仕掛けが必要と思う。
- ・グループでは様々なアイデアが出て目から鱗だった。これを参考に我々は頑張っていかなければならない。

②Bグループ（加藤勝義、土田百合子、江上善一、宮川拓也）

- ・今日の参加者に若い人が少ない。
- ・人口減少は帰ってこない、生まれないが全て。人を増やすための政策というか、出ていく人をどうやって少なくしていくかが一番のテーマになると思う。
- ・たくさん話が出たが雪国手当が印象に残った。例えば雪が降っている4カ月間は市民税ゼロみたいな発想。
- ・雪が大変だというイメージを若い世代に植え付けるのではなく、横手は雪が降るけど〇〇があるんだというような、雪をポジティブに捉え、将来横手にいてもいいよねと言えるような環境があった方がいい。
- ・実業高校のようなものが復活して、高校卒業と同時に地元企業に就職して、東京や仙台に流出しないような環境づくりが大事。
- ・今日の話し合いを有意義にして次に進めていけたらいいなと思うし、可能であればこの場に中高生・若い世代も入ってもらって、考えていることを聞きたい。

③Cグループ（高橋聖悟、立身万千子、土谷久男）

- ・環境面では、スイカ農家の減少、担い手不足。スイカをやる人がどんどん減っており活気が失われてきている。様々な分野で全体的に人手不足が起きている。
- ・市のよこて農業創成大学校事業では、新たにスイカ就農をする人が年間3人ほど出ているとのこと。

- ・県外へ農業の魅力アナウンスする、就農者を増やす施策が欲しい。地域の農業者で40代は3人しかいない。
- ・高齢者向けイベントをもう少し多くしてほしい。
- ・行政に関することでは、トヨタの下請け工場など誘致のほか本社工場が横手に来てほしい、空き家の解体をお願いしたい、公共交通をもっと便利にしてほしい、TDKのような大規模な企業誘致をしてほしい、除雪で消えた白線を早期にひいてほしい、市報に各地域の特集を掲載してほしいといった意見が出た。これらをやらないと人口減少に歯止めがかからないのではないか。
- ・今までとはまったく違うことをしないと人は減っていく一方だ。
- ・秋田県の駄目なところは最低賃金が上がる時期が日本一遅いところ。それが人口減少につながっているのではないか。
- ・若い人がいなくなっている理由として、工場に活気がない、進学・就職で県外に行ってしまう。転入する人を増やす必要がある。
- ・若者同士、男女の出会いの場をもっと必要ではないか。男女がくつつくような事業をしてほしい。県外の若者と交流する場をつくるのも一つ。
- ・増田まんが美術館もあるので、マンガの活用、高校にマンガ学科をつくって全国から学生を集める方法も考えたほうがいい。マンガ学科はすでに県外で実例がある。
- ・今までやってきたことをそのままやっても何も変わらない。

④Dグループ（石川拓也、築山智、柴田忍）

- ・農業者の減少、組合の維持が課題。
- ・担い手不足解消のために外国人受入れも考えられるが課題がある。言葉の壁や治安への懸念も課題になるだろう。
- ・地区に小学生は2人しかいないほか、世代交流の場がなくなってきている。
- ・女性が横手にいない、少ない。
- ・昔は地域に仲人がいて、男女を結びつけるような人がいたが、そういう人や場がなくなってしまった。
- ・今いる人たちで協力し合って、隣の町内など大きな規模で協力し合うことが大事だと思う。
- ・市への要望として、防災無線、猟友会、クマ問題、温泉施設も上がったので、市議会のほうでこの先しっかり話をしていきたい。

9. 出席議員所感

《井上 忠征 広報広聴委員長》

里見地区交流センター運営協議会の皆様には、悪天候のなかご参加いただきありがとうございました。また、人口減少という大きなテーマではありましたが、身近に感じる種々の問題について積極的に意見交換することができ、市議会広報広聴委員会として感謝申し上げます。

まず、参加者の皆さんが住んでいる地域では、若者の転出、出生数の減少、結婚しない・できないとの現状があり、また農業を始めとした家業を継承することができない実態が大きな話題となりました。

人口減少という大きな問題の中身は、地域の皆さんにとっては細かな問題が積み重なったの結果なのかと思ったところです。

懇談していて、これをすれば解決するといった即効性のある取組は難しいのですが、ないものねだりではなく、ここに住んで暮らしている市民一人一人が、世間的には何もないと言われる横手の自然環境・文化・人間性を十分認識して、県内外にもっともっと訴えPRして、横手市の魅力を発信することが解決に繋がる一步になるとの意見が多く出ました。

人口減少問題は、大都会等の一部を除けばどこでも叫ばれており、横手市に限った話ではありませんが、解決の糸口はその住民がどう捉えて、どう行動しているかが大事な視点であるとグループ内で共通認識が図られました。

《菅原 正志 議長》

住民・議員の参加が多くて盛会でした。

住民からできるだけ多く発言していただくことが大事です。その辺のスキルを議員間で差がないように学んでいけばと思います。

今回を振り返って、広聴委員会としてどうしていくか、職員と委員長だけではなく構成・進行をすすめて欲しいと思います。

住民の要望会ではなく、課題を共有して議会活力に反映していきましょう。

《土田百合子 議員》

人口が減っても地域でいきいき暮らせるために、住民は、市は何をすれば良いのか、といった視点で話し合いが進められました。

- ・課題として、行事に若い人の参加が無い
- ・跡継ぎがない
- ・意見を言わない
- ・世代間交流をどうするか
- ・県外の大学へ進学し、就職し帰ってこない
- ・地元では就職できる環境に選択ができない
- ・介護職の募集はあるが、給料が安い
- ・雪が多く、灯油などの燃料にお金がかかるため「雪国手当」がほしい
- ・収入が少ないために、子育て人数が一人か二人になってしまう

・除雪したくない

さまざまな里見地区の課題がある中で、少子化対策を解消するためには、地域の良さの発信をすることや、親の言葉遣いは子どもへの成長に影響することが、議員の子育ての経験から出された。

横手市で暮らす上でのメリットとして、自然災害が少なく、四季折々の季節の良さがある。これから盛り上げるとすれば、例えば、増田まんが美術館でもっと身近に利用できる政策や、横手の「星が一番きれいな地域、東北で一番きれいな」といったアピールをする。市報に「住みよいアピール」を掲載するなどの提案があった。男女の交流の機会を今後増やすことや、家庭内のコミュニケーションも大事であることなどの意見から、テーマの「人口減少対策」は家庭で子どもとのコミュニケーションの機会を増やすことや、地域でも若者との交流を増やすイベントなど、大人も雪国の良さを伝える気持ちが大事だと感じた。今回の懇談会から自分の幼少の時の冬は、馬そりや箱ぞりに乗ったり、お正月はお父さんが杵でお餅をついて、おばあちゃんとお母さんと子ども達が、お餅を丸めて中にあんこやごまやきな粉をつけて楽しく時を過ごしたことを思い出された。もっと冬を楽しめる行事の企画が地元を愛することに繋がると思う。

《立身万千子 議員》

テーマが「人口減少対策」と、大変大きいものだったので、どう進めていくのか若干不安になったが自分の所属するグループのみならず活発な発言が飛び交い、圧倒された。農業を始めとして定着した仕事で若い世代が家庭を築いていける取組を数多く実現すること、秋田県の最低賃金を全国並みに速やかにアップさせること、地域事情を把握できる、昔のような「仲人」の存在を甦らせること等々の意見が出た。議会報も然りだが、市報の内容について、「8地域を偏りのないように報道してもらいたい！」と主張する郷土愛に満ちた意見を深刻に受け止めた。出席者の募集や人選方法を伺いたかったが、女性の少なさが残念だった。時間外の意見交換は難儀ではあるが、もう少し工夫を重ねて、議員がより多くの地域に出向くことの重要性を痛感した。

《石岡恵美子 議員》

人口減少が加速する中、本市の持続可能な未来に向け、地域住民の皆様と議員による意見交換会を開催しました。対話を通じて浮き彫りとなったのは、若者の流出が地域の基幹産業を直結して揺るがしているという、深刻な「負の連鎖」の実態です。

「高校卒業後の進学や就職を機に、地域外へ若者がいなくなってしまう」という、切実な不安が寄せられました。若い世代の不在は、地域活動の担い手不足だけでなく、活気そのものの喪失に繋がっています。

若者の不在は、地域の生命線である農業の縮小を招いています。「担い手がいがないため、断念せざるを得ない」との声もあり、農地の荒廃や、先人から受け継いできた風景・伝統の維持が危ぶまれています。

今回、いただいたご意見は、単なる人口の問題ではなく、私たちの生活の土台が揺らいで

いるという警鐘です。

議員として、これらの声を真摯に受け止め、若者が「戻りたい」と思える就業機会の創出と生活支援の拡充、次世代が希望を持てる持続可能な農業モデルへの転換支援、住民の皆様がこの地に住み続けたいと思える未来を共に築くため、引き続き対話を重ね、実効性のある政策提言に繋げてまいります。

《江上 善一 議員》

人口減少が日本一進んでいる秋田県にとって、この課題は非常に難題である。課題は多いが行き着くところは雪対策ではないだろうか？根本的に雪や冬季間の問題に対して、助成・補助金等の政策は必要かつ重要だと認識して欲しい、という意見が総意と感じられたし、私も同意である。

名称はともかく、雪国で生活することのハンディキャップに対して『雪国手当』的な国の対策が無いと、人口減少は避けられない。この問題の解決には相当なお金がかかると思います。しかしながら、言い換えるとその課題対策次第で、この問題は解決できる可能性もっています。市民目線から頂戴したご意見をもとに、このテーマの核心部分を3月定例会の一般質問で取り上げて、当局と前向きに討論したいと思います。

《土谷 久男 議員》

里見地区住民懇談会に参加して

今回初めて住民懇談会に参加しました。大きなテーマ(人口減少について)で個々に提案して頂きました。

様々なお話しが有り、まとめる事は難しいと思いました。しかし参加者全員から意見を聞く事ができました。

勉強になる意見交換会でした。

《高橋 聖悟 議員》

久しぶりの「市民と議会の懇談会」の開催であった。内容としては、人口減少対策についてであり、これを解決、まとめるのは非常に難儀なことだが、当該地区の人口減少を見れば危機感も当然である。もちろん、横手市、秋田県を鑑みればそこだけの問題ではないのは共通理解だ。そんなことから、「市行政はどんな対策がある？」から始まり、我々は、交流人口を増やす、男女の出会いや活動、子育て支援などの減ることへの対応策や婚姻成就させること、保護者応援などに市は予算を投下している一通りの施策を話したが、テーマが壮大なだけに、話は多岐に。働く場所、賃金、地域製品の振興、昭和的発想の出会いなど、否定するものはないが、里見地区の実情や求めていることが率直に語られ良かったと思う。これを受け止め、市のみならず関係機関を通じて解決に向けて行動を起こしていきたい。

《築山 智 議員》

今回、初めて市民の方との懇談の場に参加させて頂きました。「人口減少対策について」のテーマに対してそれぞれの角度から貴重なご意見や課題などを聞かせて頂きました。冒頭、

この日を楽しみにして来たと仰られた方もおり、この懇談会の重要性を感じました。人口減少問題はやはり若者が残らない、女性が横手からいなくなる、昭和の時代は仲人がいて結婚をサポートしてくれた、収入面や物価高の影響ももろにありなかなか結婚に踏み込めないのでは？等のご意見があった。地域の問題として、住みやすい横手にしてほしい、公民館での話し合いの場も少なくなってきた、若者との触れ合いの時間や交流の場が取れなくなってきた、この地域には子どもが2人しかいない、空き家の問題、などの声があった。合わせてクマに対する不安の声も聞かれました。「人口減少対策」という大きなテーマでありましたが、今回は里見地区の皆さまの貴重なご意見を聞かせて頂きました。他地域でも課題や問題はあります。またこういった場を設けて頂き、対話を通してしっかりと解決にむけて取り組んでいきたいと感じました。

《加藤 勝義 議員》

人口減少という大きなテーマでした。国内における様々な要因での人口減少や少子化、高齢化であり、国内経済、海外とのグローバルな影響、年齢各層の価値観などがリンクしての人口減少問題である。意見では、都市部と地方部、雪国と温暖地の生活や暮らしの違いが一つの原因としての人口減少があると意見があった。特筆すべきは雪国という側面からの暮らしや、後継者、若者の将来における進学と働く場所の地方での少なさと、雪国の厳しさが、Uターン・Aターンを阻害している事がネックになっているとの意見もあった。今回の参加者は、親世代以上の方々の参加が多かったが、意見の中には中高生からの意見も聞いてみたいとして、若い方の参加も今後検討してはとの意見もあった。国内において、豪雪地帯の人口減少が顕著である事が言われている。そのためには、魅力があり幸福感を感じれる地域にどの様にしていくかが、先ずは求められていると感ずる懇談会であった。

《宮川 拓也 議員》

意見交換会では日々の暮らしの中で実感されている課題が数多く語られ、大変示唆に富む時間となった。

特に印象に残ったのは、雪国ならではの生活の厳しさ、地域の世代交代が進まず若い世代が定着しにくい構造についての声だった。都市部との賃金格差や雇用の選択肢の少なさは若者の流出や少子化に直結しており、地元に残りたいと思っても現実的に選択肢が限られてしまうという切実な声が多く聞かれた。

また、若者だけでなく、親世代や地域全体が地方に対してネガティブなイメージを抱いてしまっていることも見過ごせない課題であると感じた。「どうせ地方にいても将来がない」「外に出たほうがいい」といった無意識のメッセージが、結果として人口流出を後押ししているのではないかという指摘は改めて考えさせられるものがあった。

人口減少対策は、単に移住者を増やすことや子育て支援を厚くするといった施策の足し算だけで解決できるものではない。地域の魅力をどう再定義し、どう誇れる街として次世代につないでいくのか。それこそが、今私たちに突きつけられているのだと感じる。

今回の意見交換会では、市の事業や制度もさることながら、地域の意識や空気感といったものこそが問われていることを実感する場となった。

《大日向香輝 議員》

はじめに、地域が抱える問題点として、子どもの数が少なくなっていること、農業経営が成り立ちにくくなっていること、雪国ならではの生活の厳しさ、生活に不便な地域が多いこと、移住希望者に対する情報発信が分かりにくいこと、さらに、都会から戻ってくる家族の子育て支援が十分とは言えないことなど、多くの課題が率直に挙げられた。

いずれも里見地区に限らず、横手市全体、さらには地方が共通して抱える深刻な問題であり、参加者からは現場ならではの切実な声が聞かれた。

一方で、解決に向けた前向きな意見も多く出された。

「まずは自分たち自身が幸せで楽しく暮らせる地域になることが大切」という意見をはじめ、横手市の名所や自然、文化をもっと積極的にアピールしていくこと、地元の魅力を学校教育に取り入れて子どもたちに誇りを持ってもらうこと、外から人を呼び込む仕掛けづくりが必要であること、そして SNS をうまく活用した情報発信や、田舎ならではの良さをもっと打ち出していくべきだという提案がなされた。

今回の懇談を通じて強く感じたのは、「人口減少」という大きな課題に対して、単に人を増やす施策を考えるだけでなく、今ここで暮らす人が幸せを実感できる地域づくりこそが出発点であるということである。

住んでいる人が誇りと楽しさを感じられる地域には、自然と人が集まり、戻ってきたいと思える流れが生まれる。

こうした地域の声をしっかりと受け止め、行政施策に反映させていく責任を改めて感じた。皆さまたともに、人口減少という難しい課題に正面から向き合い、「住み続けたい」「戻りたい」「訪れたい」と思える横手市づくりに取り組んでいきたい。

《小野 正伸 議員》

人口減少対策は都会以外では、日本全国どこでも共通な課題であると思います。今回、久々の市民との懇談会でしたが、皆さん積極的に発言されていて大変良かったと感じました。

様々なご意見をいただきましたが、議会(行政サイド?)として共通の認識(〇〇については、現在、横手市ではこんな政策を打ち出しているよ~、みたいな)を事前にレクチャーしていたらと思いました。

また、時間的に制約がありましたが、最後に参加者全員に一定の方向性を示せるような、まとめのコーナーがあったら(分科会長に一任)もっと締まったかなと思いました。

いずれにせよ、地域の方々が共通の認識で、議会との懇談を計画していただいた事に感謝致します。

今後、他地域からもオファーがある事を期待しております。市民の皆様から必要とされる議会を目指して！

《柴田 忍 議員》

横手市が抱えている様々な課題を的確にとらえていて、その課題の解決方向への考え方やアイデアが斬新で素晴らしく参考になり、とても良い機会だったと思います。

我々議員はもっと積極的に市民の方々の思いをくみ取る努力をし、このような懇談会を出
来るだけ多く持つべきであると思います。

行政では課題に対してある程度の方向性を示しているものもあるので、先に打ち合わせを
して解決の方向性を用意しておくことができたのではないかと考えております。ここが我々
議員側の反省点だと思います。

里見地区の皆様からのいろいろなご意見ありがとうございました。

《石川 拓也 議員》

人口減少対策についてという国レベルの非常に重要なテーマでの懇談会であり、非常に活
発な意見やも課題点が出ておりました。①農作業事業者の減少に対しては、外国人労働者の
雇用、A I、ドローンの導入意見や、②世代交流がなくなっているに対しては、交流セ
ンターの無償化、一つの町内で解決せず近隣町内との協力、仲人の存在、女性が地元にて
もらう為の施策などの意見がありました。

非常に大きいテーマでもあり市民の皆様と真摯に向き合う為にも公聴委員会（議員、行政）
での事前共有や方向性も話し合い、お示しできれば良かったなと思いました。また時間も 60
分での課題から解決まで至るのは困難な為、最終的な全体認識としてこれはという一本化した
発表報告が必要と感じました。

10. 懇談会の様子









